

福岡県

お茶の特徴

■ 概要

県南部の八女市を中心とした各地域で煎茶、玉露、かぶせ茶等、様々なお茶が生産されている。

室町時代に明（中国）で修行を終えた栄林禅師が、持ち帰った茶の種子を与え製茶技法とともに一般に伝え広めたことが「八女茶」のはじまりとされ、2023年で600年を迎える。



■県内の茶

八女茶：あまくてコクがあり旨味の強さが特徴。

品質を重視した「芽重型」（芽数を少なくし枝葉を大きくしたもの）として栽培。

* 八女伝統本玉露 (※)

八女市及び周辺市町の中山間地域において、昔ながらの稲わらにより被覆し、生葉を手摘みにより収穫。うまみ成分のテアニンが豊富で、まろやかでコクがある。

※2015年12月にGIに登録

特徴的な取組

【第77回全国お茶まつり 福岡大会】



【茶の文化館（八女市星野村）】

伝統本玉露「しずく茶」をはじめ様々なお茶を楽しむことができるだけでなく、お茶に関する体験も可能。展示エリアやお土産コーナーも設置。



左から：茶の文化館内呈茶ホール、和喫茶メニュー「玉露しずく茶
和菓子付き」、体験メニュー（抹茶碾き）

お茶の特徴

■ 概要

県西部の嬉野市を中心にお茶を生産。

江戸時代の1760年には、オランダ商社により長崎港から初めての輸出が行われたとされている。

■ 県内の茶の例

うれしの茶：茶葉の形状が勾玉状に丸い玉緑茶（グリ茶）で、一枚一枚が丸く緑茶の艶が深く、香りや旨みが強いのが特徴。

2002年に、佐賀県または長崎県において生産された原料茶を100%使用し仕上げ加工した茶を統一銘柄「うれしの茶（嬉野茶）」とした。



* 蒸し製玉緑茶

蒸気で蒸したもの。味はさわやかな香りでコクのあるうまみが特徴。



* 釜炒り茶

鉄釜で炒ったもの。香ばしくのど越しがさっぱりしている。

特徴的な取組



【嬉野 八十八（やどや）】

JR九州ホテルマネジメント（株）にて建設中の湯宿。嬉野茶の魅力と嬉野温泉、嬉野を核とした佐賀の食、工芸、風土等地域の価値を活かす湯宿を目指す。2023年10月1日開業予定。



「八十八」には、ティーセレモニールームや、お茶を楽しめるバー等を設置し、嬉野茶の魅力を感じるものとしている。

お茶の特徴

■ 概要

東彼杵町で生産される「そのぎ茶」や、五島市で生産されるスッキリした飲み口の「五島茶」等の多様なお茶が存在。

■ 県内の茶の例

そのぎ茶：長崎県を代表する銘柄。蒸し製玉緑茶でふくやかな味と香りが自慢。

全国茶品評会蒸し製玉緑茶部門で4年連続農林水産大臣賞を受賞。日本茶AWARDでは、日本茶大賞（最高賞）を3回受賞。



東彼杵町 そのぎ茶園

特徴的な取組



【そのぎ茶】

（株）FORTHEESは、そのぎ茶農家4人グループで設立。有機質肥料による茶生産と輸出向け抹茶生産へ参入。新たな茶の可能性を追求するべく、てん茶工場を整備。



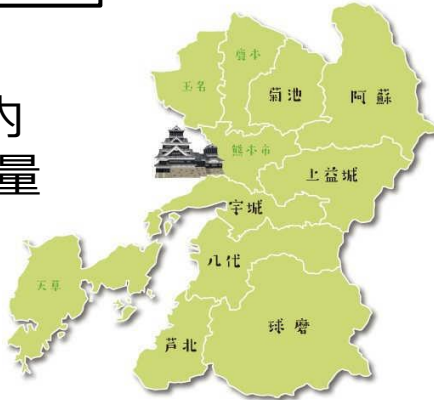
そのぎ抹茶を活用した商品

熊本県

お茶の特徴

■ 概要

古くから蒸し製玉緑茶の生産が県内一円で行われている。玉緑茶の生産量は全国屈指。



■ 県内の茶

くまもと茶：煎茶、蒸し製玉緑茶及び釜炒り茶を主に生産。球磨地方が県内最大の茶産地で、大規模茶園を形成。

また、菊池地方や芦北地方は、標高の高さを活かし減農薬栽培が行われている。上益城地方では無農薬栽培や有機茶栽培も行われている。



平坦地の大規模茶園（芦北地域）

特徴的な取組



【上益城：お茶の富澤。の取組】

- ・約 5 haの有機（玉緑茶中心）園を管理。抹茶、玉露にも注力。
- ・生産部門のほか、販売部門を設置し、カフェと直営店（阿蘇くまもと空港内）を運営。

上：有機茶園

下：カフェメニュー、空港内直営店

大分県

お茶の特徴

■ 概要

県全体に幅広く茶産地が分布し、大部分が小規模な自園自製で経営。

平成18年度から大手緑茶飲料メーカーと関係各市との間で茶産地育成協定を締結し、平成25年度までに100haの専用茶園を造成。現在は合計200haの茶園造成を目指して産地づくりを進めている。

■ 県内の茶の例

主な産地は、中津市、佐伯市、臼杵市、豊後大野市などで、煎茶「きつき茶」「耶馬溪茶」「豊後大野茶」、蒸し製玉緑茶「吉四六茶」、釜炒り製玉緑茶「因尾茶」がある。



緑茶飲料用専用茶園

特徴的な取組



【茶産地育成事業】

株式会社伊藤園と県・市等の協働により、荒廃農地等で大規模茶園を造成。茶葉は、全量伊藤園が買い取り、技術・ノウハウも支援。



【臼杵市】

臼杵市（旧野津町）では茶の有機栽培が盛ん。市内の高橋製茶は、有機JASを取得し、生産・加工・販売まで一貫して実施。お茶カフェもオープン。

宮崎県

お茶の特徴

■ 概要

宮崎県は、茶園面積全国6位、荒茶生産量全国4位の茶産地。

生産地は、沿海から標高700mまで広く分布し、県内全域で煎茶と蒸し製玉緑茶が生産され、一部で碾茶、紅茶も生産されている。

また、西北山間地は全国一の釜炒り茶の産地として知られている。

■ 県内の茶の例

みやざき茶：コクのある味とふくよかで高い香りが特徴。

優良早生品種“きらり31”、“はると34”など県が推奨する13品種をはじめ、優れた特徴を持つ多くの品種が栽培され、バラエティに富んでいる。

釜炒り茶：特に、宮崎県西臼杵郡では、年間約200トンが生産され、日本一の生産量を誇る。水色は澄んだ黄金色で、香ばしくすっきりした香り「釜香」が特徴。



特徴的な取組

【オーガニックティー宮崎（OTM）】

小浦製茶を代表とする有機茶生産組織。お茶の沢田園と共に、南九州輸出茶コンソーシアムを設立し、輸出向け事業に取り組む。海外では粉末茶の需要が高いことから、モガ茶※の栽培にも力を入れる。

※一般的に、煎茶の製造ラインで製造された揉みこみの少ない茶葉を指す。



小浦製茶の茶畑

【高千穂地区農業協同組合】

（釜炒り茶振興会）

高千穂地区の釜炒り茶の認知度向上と魅力発信のため、海外での茶関係イベントへの出展や地域の景観を生かしたティーツーリズムコンテンツを検討。地域の魅力が伝わるパッケージで包装した地域を代表する茶のお土産商品等の開発を行う。



イベントの様子（左）と新商品パッケージ（右）

鹿児島県

お茶の特徴

■ 概要

鹿児島県では、温暖な気候を生かし、他産地に先駆けて新茶を生産。多様な品種の栽培により、様々なニーズに対応。また、有機栽培面積、てん茶生産量が日本一。

■ 県内の茶の例

- ・知覧茶：鮮明で濃い緑の旨味に富む味わいのお茶。知名度は全国区。
- ・霧島茶：澄んだ黄緑色の水色とくせのない豊かな香り、心地よい旨味が特徴。また、山間部では有機栽培が盛ん。
- ・志布志茶、有明茶：
早生から晩生まで多様な品種を栽培。品種を調合することで、色・味・香りのバランスの取れた茶を生産。



知覧茶（南九州市）



霧島茶（霧島市）



志布志茶（志布志市）

特徴的な取組



【有限会社西製茶工場】

法人を中心とした生産者間連携による大規模な有機栽培を実践。



【鹿児島堀口製茶有限公司】

化学農薬のみに頼らない病虫害防除や、ASIAGAP、FSSC22000の取得等により、安心・安全な茶を国内外に提供。